

平成15年 4月25日

保護者 各位

川場中学校 校長 利根川太郎

### 定期テスト廃止とそれともなう変更点についてのお知らせ

時下、ますますご清勝のこととお慶び申し上げます。平素から、本校の教育に関しましてご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度より評価の仕方が変わったことは、地区懇談会での説明や通知表の改訂版をご覧くださいお分かりのことと思います。本校では、その後も生徒の学力向上のために検討を重ね、本年度の変更点を以下のようにしたいと思いますので、ご理解のほど宜しくお願い致します。

『テストがあるときだけ勉強する傾向からの脱皮。テストがなければ勉強しないだろうという心配の解消』

#### 通知表について

昨年度と同様に、4つの観点(国語は5観点)を総合的に評価していきます。具体的には、授業中の態度、提出物、授業中の活動、ノート(プリント)、作品、小テスト、単元テストで評価していきます。

#### 単元テスト

授業で身に付けて欲しい基本的な内容を観点別に出題します。目標に達しなかった生徒については、次の授業及び金曜日の6時間目(月に一度程度)、長期休業中の学習相談日に補充学習を行います。また、観点別の到達度を図る大切な資料として活用しますので、教科によっては満点の点数や実施時期もまちまちになり、個人成績表などは作りません。

#### 定期テスト(中間、期末テスト)

今年度から実施しません。そこに至る経緯は次の通りです。

新しい教育課程では、目標を設定して、その到達度による評価をするようになりました。単元終了後の単元テストを充実させることで、定期テストでは満たすことのできない以下のような効果が期待できます。

- ・単元終了後すぐに評価を行うことで、より正確な到達度を測定できる。
- ・もし、目標に到達していない生徒が多い場合は、すぐに授業の中で補充学習の時間を確保できる。
- ・授業後すぐに実施するので、授業を大切に、日々復習することが必要になる。
- ・定期テストがない分、授業や単元テストへの意識が高まる。

#### 定期テストの弊害

- ・定期テストの時だけ頑張る勉強すればよいという考えを持ってしまう。
- ・生徒や保護者が定期テストの結果を重要視する傾向が続いてしまい、他と比較するという価値観が拭い去れない。

逆に定期テストで期待されることは、

- ・計画を立て、ある程度の範囲の勉強方法を身に付けることができる。
- ・学習内容がよくわかる生徒にも目標をもって取り組ませることができる。
- ・集中して学習に取り組むことで、学力を積み重ねていくことができる。

そこで、この部分を補うために、学期末にその学期に学習した内容を範囲とした総合テストを実施します。また、年に何回か実力テストを実施します。

#### 総合テスト

成績には加味しません。その学期の学習内容を範囲とし、自己診断的な位置付けとしてのテストです。

テストの結果をもとにして、補充学習を実施します。具体的には、長期休業中に学習相談日を設定し、できなかったところを復習します。

#### 実力テスト

単元テストや総合テストだけでは、他と比較しての自分の学力を知りたい時に不十分であると言えます。また、集中して、広範囲の多教科のテスト勉強の仕方を身に付けるためにも、基礎問題から応用力を必要とするテストとして実施します。したがって、母集団の中の自分の学力の様子分かる個人成績票を渡します。

